

8～1月 訪問支援等の状況

今期も、多くの学校等に訪問支援等のセンター的機能の活用していただいています。今号では、8～1月の状況について、相談例の一部を含めてご紹介します。日々の指導支援の参考になれば幸いです。

【① 教育相談】

就学先の検討に関する相談が中心でした。小学校4・5年生の保護者や担任の先生から当校の授業内容や進学に関する教育相談等の進め方についてご質問を複数いただきました。

必要に応じて、当校に関する情報提供を学校見学や訪問支援の形で行います。「ふじかわ分校ってどんな学校？」と思ったら、一度メールまたはお電話でご連絡ください。

【② 訪問支援】

今期は、訪問支援でも進路に関する相談が複数ありました。当校が進路の候補ではない事例でも、高等学校等に関する情報提供や、進路決定における本人の理解と進学への意欲の大切さ等をお伝えしました。

① 教育相談	電話相談	5回
	来校相談	0回
	学校見学	2件
	体験学習	2回
② 訪問支援	小学校	7回
	中学校	1回
	幼稚園・保育所	1回
	高等学校	2回
③外部専門家派遣		5回
④研修支援		1回

(令和4年度8月～1月)

《こんな相談がありました》

質問 医療機関でグレーゾーンと診断された高校生。個別に対応すると理解できるが、定期試験の結果は思わしくない。高校では、既定の単位を取得する必要があるが、今後が心配。

回答 授業中は、姿勢はかなり崩れがちでしたが、話は聞いている様子でした。字の乱れから、空間認知力の低さが推測されました。医療機関からも指摘されている認知力の低さに加えて、①小学校からの学びの積み重ねが不十分、②試験の受け方の理解が不十分で実力が発揮できない、などの要因が考えられます。家庭学習で基礎力を積みたいところですが、認知面だけでなくこれまでの学習経験から意欲の低下も予想されます。そのため、(1)本人・保護者・学校の三者で目標(専門学校合格)を共有。(2)今の実力の確認のために、対象校の入試の過去問を解く。(3)今の実力と目標との差を確認し、その差を埋める学習内容や学習量、方法を検討(または、目標を修正する)。という流れで、学習への意欲を高めることを提案しました。また、試験の受け方について、わかる問題から解く、見直しをする等の一見当たり前だと思うことも含めて整理すると、意外とわかっていなかったことが見つかるかもしれません。

【③ 外部専門家活用】

上記の②訪問支援の件数のうち、外部専門家（心理士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等）を帯同したケースをカウントしています。

《こんな相談がありました》

質問 小学校支援学級（情緒）の児童。立位や歩行時につま先立ちになる。保護者も「転びやすい」と感じている。足裏の過敏はないが、普段は 90 度に曲げることが難しく、じっくり緩めると曲げられる。屈伸やアキレス腱伸ばし等が他児と同じようにできないと意識し、あきらめている様子がある。コーディネーターによる観察後、より専門的な視点での助言を得るために、作業療法士（OT）の派遣をした。

回答 OTからは、バランスを保つことが苦手なために、脚を突っ張って姿勢を保とうとしていること、それによってつま先立ちになってしまうことが指摘されました。また、頭の傾きに過敏に反応してしまい、平衡に戻そうとする感覚の弱さがあることも指摘されました。本人が不安にならないように配慮しつつ、凹凸のある床面を歩く・トランポリンで飛ぶ・ライン上を歩く（障害物をよけながら）等の運動面での指導の他、ビジョントレーニングについても提案がありました。ビジョントレーニングで培われる「見る力」はバランスを保つことにも影響します。



【④ 研修支援】

峡南保健福祉事務所主催の「峡南地域発達障害児連携支援研修会」で研修講師をしました。「途切れのない支援を目指して～『LD・ADHD 等の心理的疑似体験プログラム』を通して学ぶ発達障害児の特性と支援～」というテーマで、体験プログラムを交えて、発達障害児に対する理解を深めました。また、多くの事前質問をいただき、それに答えることで峡南地域での途切れのない支援について情報提供を行いました。

《こんな質問がありました》

質問 LD の疑いのある生徒がいた場合、具体的な判断基準と通常学級における具体的な支援方法と連携支援が可能な機関について教えていただきたい。

回答 LD（学習症・学習障害）については、医療機関で検査の上医師が診断するものです。学校や園では、具体的な本人の困難な状況（例：教科書の音読がたどたどしい等）から、支援方法の検討を行います。また、LD は、聞く、話す、読む、書く、計算する、又は推論する能力のうち、どの能力に困難さがあるかにより、支援方法が大きく変わります。当校の訪問支援では、診断がなくても「学びにくさ」を観察した上で、状況に応じた指導支援方法を一緒に考えます。必要に応じて、全校教職員向けの研修会運営の支援も対応します。

今年度も、様々なところでご協力いただきましてありがとうございました。今後も、様々なお子さんの学びの困難さについて、皆さんとともに考えていきます。心配なこと、悩んでいることなど、何かありましたら遠慮なくご連絡ください。

山梨県立わかば支援学校 ふじかわ分校

〒400-0601 南巨摩郡富士川町鯉沢 5 6 7 3 - 1 2

T E L : 0556-27-0067 メール : wakafuji@kai.ed.jp

地域支援担当：保坂美智子 豊嶋千鶴 小野みゆき



ぶんこちゃん